

いのちの水

二〇二四年 七月号 第七六一号

(主にあって)常に喜べ、絶えず祈れ。すべてにおいて感謝せよ。これこそ、キリスト・イエスにあるあなた方に対する神のご意志であるゆえに。
(Iテサロニケ5の16〜18)

目次

- ・ 恵みと平和 1
- ・ 二種の方向転換 4
- ・ 思い起こすことの重要性 6
- ・ 主は備えたもう 10

本間勝 (神奈川県)
 ・ 一つになる 貝出久美子 11

集案案内



恵みと平和 (平安)

現在の世界的状況を知るにつけても、平和への願いはいつそう強められる。

ここでいう平和とは、戦争がないことである。

他方、日本は戦後80年近く、戦争に加わらない状態が続いている。それは平和の時代が続いているということになる。

しかし、そのような平和が長く続いているからといって、日本人の精神がより真実になったか、神と隣人への愛が増大してきたであろうか。

新約聖書で平和と訳されて

いる原語 (ギリシヤ語) は、エイレーネーであるが、そのもとにあるヘブル語の平和、平安を意味する言葉は、シャローーム (*) である。

ここでは、新約聖書において「平和」と「恵み」の深いつながりを受け止めたと思う。

(*) 正確にはこのように母音は長音だが、現在ではシャローーム とはじめての母音を短く発音している。これは一般的に古代原語はヘブル語だけでなくギリシヤ語、ラテン語も長音が非常に多いが、現代語はそのような傾向が失われ短い発音となっている。古代言語のゆったりとした音楽的響きを持つ傾向が、次に短く簡略化されていく傾向

にある。

このヘブル語は、一時的な別れや朝の挨拶にもごく普通に用いられるのを私もじつさいに以前イスラエルの旅で実感した。

しかし、本来のシャローームという言葉は、「完全さ、完成された状態」という意味であり、そこから健康、平和、繁栄等々のさまざまの意味をも持つようになった。

ヘブル語辞典として広く知られた *Ng Brown・Driver・Briggs* 編纂の辞書 (百年以上用いられてきた) には、*completeness* (完全性)、*soundness* (健全)、*welfare* (豊かさ)、*peace* (平和、平安) とその語彙の説明の最初に記されている。

「完成する」という本来の

意味では、「こうしてソロモンの神殿は完成した。」(列王記上9の25)のように用いられている。

日常生活で、シャローーム!との挨拶は、健やかであるようにとの願い、祈りを込めた意味があった。

使徒たちの手紙には、最初、あるいは最後のところで、繰り返し次の言葉がみられる。

：私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平和(平安)があな

た方にあるように。

(ローマ1の7)

新約聖書に残されている使徒たちの書簡で、このような言葉が常に用いられていた。それは何を意味するのか。

現在の私たちの生活の中で、

恵みといえ、天候に恵まれるとか、田植えのころの恵みの雨、また恵まれた才能を発揮：というように、偶然的に与えられた良きものを意味する。

しかし、キリスト教、聖書においては、そのような日常生活のいろいろな良きものでなく、全く異なるものを意味する。

すでに引用した言葉、神とキリストからの「恵みと平安(平和)」を祈る、ということとは、新約聖書におさめられている使徒たちの手紙でほとんど常に最初にあるいはさらにおわりの部分でも、繰り返し言われている。(*)

(*) Iコリント(1の3)、IIコリント(1の2)、ガラテヤ書(1の3)、エペソ書(1の2)、フィリピ書(1の2)、コロサイ書(1の2、ここでは、

「私たちの父である神からの恵みと平和があなた方にあるように」とある。) I、IIテサロニケの手紙、フィレモンへの手紙、そしてIテモテ、IIテモテは、「：恵み、憐れみ、平和があるように」と、憐れみという言葉が付加されている。また、I、IIペテロの手紙にも、「：恵みと平和がますます豊かに与えられるように」とある。

この「恵みと平和」の祈りがないのは、ヘブル書、ヨハネの手紙だけである。

これは、この恵みと平和がいつも使徒たちの他者への祈りにあったことを示している。

これは、決して、この最初の内容のタイトルにあるような「挨拶」という言葉で連想される内容ではない。

挨拶というと、単なる導入のための形式的な言葉であり、なくてもいいどころか、かつての卒業式や入学式などで、しばしば県会議

員とかが現れて不要な挨拶をしていたのを思いだす。

そのように多くの新約聖書において、その手紙の最初に、「恵みと平安があるように」という祈りがあるのには、新約聖書の真理の本質とかがわっている。

それは、新約聖書で現れる「恵み」とは、通常の日本語での用法と大きく異なっており、最も人間にとつて重要なこと―すなわち魂の救いの問題に深くかわることであり、私たちが正しい真実な道、愛の道を歩むことができないこと―罪と深くかわっている。

私たちが本来あるべき姿から大きくはなれていること(罪)は、人間の根本問題であり、歴史上で最大の影響力を持ち続けてきたキリストが、こられたのもそ

の解決のためだった。

：人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています。ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。

このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。(ローマ3の21〜26より)

このように、私たちが罪深くあっても、その償いのためにいろいろな良き業をすることはとてもできない。

純粋によき業など、罪深いからこそできない。そのよき業とは何なのか。困っている人に何かすることであるうか。それも含まれるだろう。

しかし、病気、家族問題、貧困、迫害、戦争の惨禍にある人々：無数にいる。ほとんどはその個別の実態は、人間の知るところはごくわずかであって、ほとんどはわからない。家族や職場、学校でのいじめなど、そこによきわざをするといっても、そもそも本当に苦しい状況にあれば他の人には言えないことが多い。

罪の赦しとか罪からの清めということは、人間的な手段では到底できない。

それゆえに、そうした人間のあらゆる弱さや限界を知っている御方、神はイエスを地上に送り、目に見え

る純粋な良き業をする力を与え、導き、最後に耐えがたい苦しみを伴う神の定められた良き業へと導かれた。

それは、万人の罪を担って十字架で大きな釘を打ちつけられ、恐ろしい痛みに、「神様、神様、どうして私を捨てたのか！」との全身からほとばしるような絶望的叫びをあげざるをえないほどの苦しみであった。

神は人間に対して深い慈しみ、愛をもっておられたがゆえに、神のすべてのよきものを与えられて地上にこられたイエスに、人間的な普通の愛ならば、到底あり得ない恐ろしい苦しみを与えたのだった。

人間の愛は、愛する人に極力苦しみを与えないようにする。しかし、神の愛は、恐ろしいばかりの苦しみや悲しみを与えることがある。

それがいかにして愛なのか、まったく分からないような苦しみが数知れない人たちに降り注いだのが、ローマ帝国や、日本の江戸時代における厳しい迫害であった。

罪の赦しこそ、「恵み」の最たるもの、それは聖書に繰り返し記されている。

：私たちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによる。(エペソ書1の7)

それゆえに、祝祷として用いられている祈りは、その深い恵みの意味を受けて、最初に出てくる言葉となっている。

：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わり

が、あなたがた一同と共にあるように。(Ⅱコリント 13の13)

この祝祷として用いられる祈りの冒頭に、主イエス・キリストの恵みとあるが、それは罪の赦しの恵みこそは、出発点となるからである。

人間として地上に来られたイエスは、十字架上で無限の苦しみを受けて、万人の罪のあがないをされ、信仰によって神様から罪を問われないものとしていただく、という他にはあり得ない救いの道を歴史のなかで示された。

そしてそのキリストの十字架によって罪の赦しを与えられた人は、それまでの世界と本質的に異なる、霊的世界へと導かれる。それが魂の再生であり、霊的復

活であつた。

こうしたすべては、罪の赦しという大いなる恵み、そしてそこから新たな魂として復活させていただいたことも、みな主の恵みによることを繰り返して記している。

：あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいた。：

罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、―あなたがた方の救われたのは、恵みによる―キリストによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださつた。：

あなた方は、恵みにより、信仰によって救われた。

(エペソ書2の1〜8より)

そのような万人の魂の根源に救いを与える働きをな

さしめたのが、神の愛であり、そして十字架の苦しみを経て復活したキリストが聖霊である。

人間に本来に必要なのは、イエス・キリスト、神、聖霊―この三つであり、この三つは本質は同じであり、これさえあれば、どのようなことも超えていくことができる神の約束である。

二種の方向転換

立ち帰れ―数千年前から
の天来のメッセージ

現代の状況は、世界の多くの国々が、AI、ドローンなど新たな技術も取り込み、軍備増強へと大きく方向転換しつつある。そうした動向の行き着く先は何であるのか。人類の前途にとつて暗雲が立ち込めている。

現代のそうした傾向を直視するとき、それと根本的に異なる方向転換の重要性が浮かび上がってくる。

それは、聖書に記されている神への方向転換である。その神とはいかなる神なのか。

：主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。：

(出エジプト記34より)

そしてこの神への方向転換はだれでも本来はできるようになつている。病気や障がいの有無、学歴や貧富、あるいは年齢、民族や国家等々一切関係なく可能である。それゆえ、ローマ帝国時代の多くの奴隷や日本のキリシタンなども含め、社会の底辺で生きていた人たちにも広く伝わったのだっ

た。

旧約聖書の預言者たちは、共通して神に立ち帰ることの重要性を繰り返し説いている

イエスは、「悔い改めよ、天の国は近づいた」と言つて宣教を始めたが、その悔い改めとは、個々の罪を悪かったと反省する意味ではなく、この本来の意味は神への方向転換を意味する言葉である。

(ヘブル語では、シユープ *shub*、これは、著名なドイツの旧約学者のデリッチ訳のヘブル語訳の新約聖書にこのシユープが用いられている。ギリシヤ語ではメタノエオー。

デリッチ (1813~1890年) は内村鑑三もよく参照したのがその著作からうかがえる。

「星の王子さま」という子供から大人まで親しまれてきた本に、次のような箇所がある。

：砂漠が美しいのはどこかに井戸が隠してあるからだ。何も見えない。何も聞こえない。それでも、静かに何か光る……。

：星であれ、砂漠であれ、それらの美を生み出しているもの自体は目に見えない。

(... des etoiles ou du desert, ce qui fait leur beaute est invisible!)

プラトンは、目には見えない真理そのもの、善そのものの、美そのもの：が存在すると述べているが、こうした考え方が、さらに深められたのが、聖書の世界であつて、美そのもの、善や真理

そのものは、活ける神として示されていて、この真理は思索や研究して得られるものでなく、直接的に神からの啓示として与えられる。現代の私たちに最も必要

なのは、目に見える世界、数量化できるものに世界がとらわれているただ中で、この数量化ができない永遠の神の愛、真理、善そのもの、美や清らかさそのもの、しかも今も生きて働いている存在に魂の方向転換をすること、心の目を向けることである。

神が宇宙万物という広大無限のものを創造し、他方、失われた一匹の羊さえも大切にされるその神が愛そのものであるとわかるとき、私たちはその神の愛の刻印が、自然の風物の至るところに存在するのを感じる道へと導かれる。

イエスは、栄華をきわめたソロモン王も、野の花の一つにも着飾つてはいなかったと言われ、だれも見過さすような小さき野の花にも込められた神のお心を知っ

ていた。

こうした小さきもの、ささやかなものの重要性も、目に見えない神がその愛を込めて創造されたと信じることから知らされていく。

以下に引用するのは預言者の一人イザヤの受けた啓示の内容の一部である。このような愛と真実の神の切実な語りかけは、現代の私たちの一人一人にも語りかけられている。

：主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。私たちの神に立ち帰るなら、豊かに赦してください。

(イザヤ55の1~7より)

：地の果てのすべての人々よ、(この世のものから心方向転換し)私を仰ぎ望め、そうすれば救われる。

(イザヤ書45の22)

さらに、別の預言者も次のように言っている。

…ぶどうの枝は実をつけず、オリーブも収穫なく、田畑は食物を生ぜず、羊も、牛もいなくなる。

しかし、私は主によって喜び、救いの神によって喜ぶ。(ハバクク書3の17-18より)

こうした預言者が聞き取った神の言葉は、この世がいかに苦しく、また闇ばかりであつても、何も良いこともなくよきニュースはなくとも、もし、私たちが神への心の方向転換をするならば、なおその闇のただなかに静かに光り、音もないのに何か聖なる響きがあるのを示している。

いかなる困難や絶望的状况であつても、なお光と力を

与えられるために、万人に与えられた道がある。

それが祈りである。第二

次世界大戦のとき、ヒトラーの迫害によって殺害された無数の人たちのなかで、パウル・シュナイダー牧師は、次のように、死を前にした獄中という完全な闇の中から家族に書き送っている。

「愛する妻よ、何にもまして、祈りが大切だと思つて、祈りなしには何事もしないください。」

祈りなしには何事もしないことにしよう。

あなたの最初の手紙で、いかなる状況にあつても、キリスト者がいかに守られているかということが書かれてあつた。

その通りで、私が神を求め、神に祈るとき、すべての妨げは消え去ります。」

(1937. 10. 31)

Laß Dir, Liebste, immer das

Gebet für alles das Wichtigste sein und laß uns immer nichts tun ohne Gebet. Wie sind wir Christen in en Lagen so wohl geborgen, schriebst Du mir in Deinem ersten Brief nach hier. Ja, so oft ich ruf und bete, weicht alles hinter sich.. (*)

魂の神への方向転換—祈りにより、このような魂の確たる平和が、万人に与えられるようにと願っている。

(*) 従来から必要に応じて、英語や、一部にフランス語やドイツ語の原文を記しているのは、現在は、インターネットでさまざまな辞書を用いて単語の意味も調べられるようになり、またいろいろな外国語の文も翻訳ができるようになり、それらの外国語を全く知らなくともネットを効果的に用いることによって原作者の生の声、そのニュアンスを少しでも受けとる道が開けているからです。

とつて「語一句が重要な意味を

持つ内容のときには、訳し方によって大きくそのニュアンスが変化してしまうことがあるので、原語、原文のニュアンスが少しでもわかる助けになればと記しています。)

思い起こすことの重要性について

主の愛の内にあつて、この世から憎まれるとき—迫害を受けるとき、「僕は主人に勝ることはない」と私が言った言葉を思い起こしなさい。」(ヨハネ15の20)

と主は言われた。

さらに、最後の夕食のときにさまざまのことを語ったのは、弟子たちが来るべき苦難に出逢ったときにもその苦しみゆえに、信仰から離れないようにとのためであり、「その時が来たときに、私が語ったということ

を思いださせるためである。」と繰り返されている。

(16の4)

苦難―それがイエスが言われたような命にかかわる厳しい迫害のとき、神から捨てられたと思う。じつさいに、その後の歴史で、キリスト信仰ゆえに、激しい迫害を受けて重い傷を受け、苦しみながら死んでいった人たちも数知れずある。

神が愛なら、なぜそのようなことを許すのか、とどれもが疑問に思う。

戦争によっておびただしい人たちが傷つき、生涯仕事もできないほどになり、家族から周囲の人たちから厭われて生きなければならなくなり、死んでいたほうがましだという状態に置かれてしまう人たちは数知れずいる。

神の愛は、どこにあるのかという疑問は、はるか昔か

ら現代に至るまで、繰り返しながらかけられてきた。

しかし、死が迫って、非常に苦しみのただ中であつても、その弱きところに復活のキリスト―聖霊は来てくださるといのが聖書の約束するところであり、最初の殉教者となつたステパノにおいて、それははつきりと知らされる。

彼が、ユダヤ人のいろいろなまちがい、神に従わなかったことを指摘したとき、ユダヤ人から激しく憎まれ、石を打ちつけられて、死に瀕したとき、天が開けて死して復活したキリストが神の右におられるのを見た。そしてその主に、「主よ、彼らの罪を彼らに負わせな

いでください」と大声で叫びつつ、息絶えた。(使徒言行録7の55〜60より)

イエスご自身は、十字架で釘付けられた言語に絶する

苦しみに遭遇したとき、「神様、神様、なぜ私を捨てたのか!」と叫んだのだ

た。しかし、その苦しみの際立ったことのなかに、神の力は働き、十字架の死が私たちの罪からの解放のため、赦しのためだと信じるだけで、罪の赦しというかけがえのないものが与えられる道が開かれた。

さらに、その死からの復活をされ、聖霊となり、万民に吹きつけ、また渴いたところに湧き出る泉―いのちの水として求めるものに与えられる道が開かれた。

これは、弱さの中に神の力があらわされるという最大の出来事だった。

だから、苦しみを受けるときでも、そうでないときも常に、主の愛にとどまり続けよと言われる。イエスの

内にとどまるのではなく、この世の人間の考えやつながりにとどまるとき、

「枝のように投げ捨てられて枯れる。そして集められて火に投げ入れられて焼かれてしまう」(ヨハネ15の7)

このような驚くような表現のなかに、現実にくわしいことが至るところで生じているのにきづかされる。

主イエスのような永遠の真実、愛、清さに結びついていないなら、この世のさまざまな汚れや欲望、権力それらに結びつく考え方などに結びついていいるなら、たしかに、清いものに感じる心は枯れて焼かれてしまう、というほどに失われてしまう。

青く美しく広がる大空やそこに浮かぶ真っ白い雲、その姿、色合い…、夜空の星々、また海や山々が持つ限りない奥深さなど、日常的に眼

前に繰り広げられていても、それらにまったく気付かないなら、それはそうした自然に込められた神からのメッセージや神の生きて働く姿にも感じない枯れた心というものになってしまおう。

(ルカ12の12)

こうした清い、かつ無限大の奥深さを持つ自然のたたずまいは、たえざる私たちへの語りかけでもある。

苦難のとき、また深い悲しみするとき、そしてそれが長く続くとき、そうした苦しみがなぜ自分に降りかかってくるのかと疑問がふくらみ、信仰から離れていく人たちが多い。

その語りかけに敏感になるためには、「(霊的に必要な)すべてを教える」(ヨハネ14の27) と約束されている聖なる霊をうける必要がある。

それゆえに、苦難のときには、「聖霊がすべてのことを教え、私が話しておいたことをすべて思い起こさせてくださる。」(ヨハネ14の26) との御言葉どおりに、聖霊がイエスの言葉を思い起こさせてくれること、またあらたに教え、語りかけてくださるのを待ち望むように導かれる。

そしてその聖霊は、迫害という生死をも分からなくなるほどの苦しい状況においても、すべてを教えるといわれたとおり、いうべきことも教え、語りかけてくるのが、記されている。

真理とは、しずまって主に向うとき、どこか思いだすというほのかな感じを持つ。そうした魂の状況は、すでに

：言うべきことは、聖霊が

真理とは、しずまって主に向うとき、どこか思いだすというほのかな感じを持つ。そうした魂の状況は、すでに

に旧約聖書から記されている。

このことは、プラトンも

想起 アナムネーシス (anamnesis) という言葉を用いて

真理は単なる学習でなく、「想起」によって獲得

されることを説いている。

なおこの語は、すぐあとで

触れる 思いだす (ムネーモニューオー *mnemoneuo*) と

語源的に共通しており、英語のリメンバー *remember*

のように、思い起こす、覚えるという意味をもっている。

・ああ、私は床の上であな

たを思い出し(*)、

夜ふけて私はあなたを思う。

(詩編63の6)

古代においてはーというより日本でも1500年ほど前

までは、電気もなく、一般の人々は、みな夕暮れと

もに窓の明かりの乏しい茅葺き家では、たちまち暗くなってしまい、長い夜の時間となる。

現代のように、一晩中でも、明るく保つなど考えられないことだった。そのような古代から近年に至るまでの庶民は夜には何をすること

もできず、朝は夜明けとともに起きて仕事、ということとだったであろう。

しかし、この聖書の民は、神への生きた信仰を与えられた人たちは、夜となると、祈り、神との霊的対話、交流のときとなったのがうかがえる。

次の聖句にも、困難なとき、信仰から落ちていこうとするようなとき、思い起こすことの重要性が記されている。

：あなたが、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起して(*)、それを

守りとおし、かつ (神に) 方向転換せよ (悔い改め) (**).

もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来る。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない。

(黙示録3の3)

(*) 思い起こす ムネーモニー オー mnemonic これは、英語の memory と語源的には同じである。

(**) ヘブル語訳新約聖書では方向転換の意味である シューブ shub が用いられている。

そして思い起こす ということは、そうした苦難のときでなくとも、毎日の生活のなかで、同じ信仰を持つ人たちの状況を思い起こして祈り、そこに御国がきまらずように、との祈りが生まれる。
:あなたがたの信仰の働き

と、愛の労苦と、わたしたちの主イエス・キリストに対する望みの忍耐とを、わたしたちの父なる神のみまえに、絶えず思い起している。(1テサロニケ1の3)

祈りとは絶えることなき想起ー思いだすことでもある。

神様の愛と真実な導き、そしてそれは現在も生活のいたるところで、その愛とそのままのまなざしを感じ、静かな語りかけを感じることに、そして他者のことも主にあつて思い起こすこととつながっていく。

人知れず、主イエスに心を注ぎだしたこと、聖書のなかには、高価な油をイエスに注いだ女のごとが記されていて、主は、「世界中でこの女のしたことは、記念として伝えられる。(記憶として残され、思いだされ

ていく) (マタイ26の13) と言われていて、その通りになっている。

日曜日でもイエスの復活の記念をする日であり、それは同時に私たち自身が死の世界、枯れていたものから命あるものとしてよみがえらせていただいたことを新たに思い起こす日である。

復活がいかに重要であるのか、いかに人間の歴史にとつても死に勝利することが絶大な勝利、真理であるかを思いだすことのためである。使徒パウロは言う。

「復活がないなら、あなた方の信仰は空しく、今なお罪の中にいることになる。復活を信じないで、キリストに望みをかけているだけなら、すべての人のなかでもっともみじめな存在だ。(1コリント15の17、19より)

復活ー死にうち勝つ神の力を信じることは、信仰の生死を分ける重要なことである。

それゆえに、たえず復活の重要性を思い起こし、その復活の力を新たに受けることのために、イエスが復活した日曜日が主の日となり、礼拝が世界でなされてきた。

それはまた、聖書の最初の部分で言われているように、神が天地創造を終えて、第七日を聖別して祝福した(創世記2の3) という御言葉の精神をも受け継いでいる。

旧約聖書では第七日は土曜日であったが、それを復活の特別な重要性から日曜日に変更されたのであった。

また、「いつも感謝せよ、絶えず祈れ、いつも喜べ」(*) と言われていることも、やはり過去から現在を静かに祈りの内に思い起こすこ

とによって、さまざまのこ
とが主の生きた愛の導きだ
と感じられるようになり、
自然に感謝が生まれてくる。

(*) (Iテサロニケ5の16、
18、コロサイ3の15、17など)

このように、私たちの心が
さまざまのこの世のことで
動かされ、動揺し、疑念に
とりつかれようとするとき、
静まって神がなされてきた
ことをひとつずつ思い起こ
す、それは本来学問や多様
な知識、健康、特別な能力
年齢：等々不要で、だれで
もが、主を仰いで静まるな
ら与えられる道である。
そのような万人に開かれた
道をすでに旧約聖書の預言
者は啓示によって知らされ
ていた。

…見よ、私はあなたを練った。

苦しみの炉をもつてあなた
に試練を与えた。

(イザヤ48の10より)

…山は移り、丘は動いても
わが慈しみはあなたから離
れることはない。(同54の10)

主を信じて仰ぎ続けるとき
には、このように語りかけ
ている神の声、聖霊からの
語りかけが魂の深いところ
から湧き出るように思いだ
されてくる状況がこれらの
言葉が指し示している。

主は備えたもう

心に残っている御言葉から

本間勝(神奈川)

「ヤーウエ・イルエ(主は
備えてくださる。)」(創
世記22の14) (*)

1961年夏。18歳の私

は下宿を探して暑い学生街
を歩きまわっていました。
一週間、探し回ったが、条
件に合うところはYMC A
の学生寮しかありませんで
した。

朝晩二食付きで月額720
0円。

ここなら空腹の心配なく、
東京大空襲の仕返しにアメ
リカをやっつける新兵器の
開発研究に没頭できると思っ
た。応募倍率が約4倍、ク
リスチャン優先とのことだ
した。

キリスト教は、当時の自分
にとつては、空襲で親の命
を奪った憎いアメリカの宗
教で好感を持ってませんでし
たが、背に腹は代えられな
い。なんとかここに入りた
いと思いました。

応募資料に保証人の名前
を書く欄がありました。親
のいない自分は叔父の名前

を書くしかありません。こ
れが問題です。叔父の本間
誠は、元帝国陸軍大佐。北
京のBC級裁判で死刑を求
刑された戦争犯罪人です。
キリスト教の保証人には一
番相応しくないと思いまし
たが、大変迷った挙句、正
直に叔父の名前を書いて提
出しました。

面接は教授と寮監の二名
でした。最初に一番恐れて
いた質問がきました。

「叔父様のお勧めで応募さ
れたのですか」

「いいえ、叔父に知られた
ら大反対されると思います。」
「そんなことはないでしょ
う。叔父様は偉い先生です
よ。」これは嘘だと思った。
「戦犯の叔父を褒める人はい
ない。」違います。叔父は
右翼です。」

「またまたそんな冗談を言っ
て。」

「本当です。叔父は筋金入りの右翼です。」
寮監は怒りだした。

「お黙りなさい。それ以上、叔父様の悪口を言ってはなりません。」

黙って聞いていた教授が口を挟んだ。「これはもう決まりですね。寮に入れて性根を叩き直す必要はありません。明日にでも入寮しなさい。」それで面接が終わりました。

気がつくくと、大勢のライバルを尻目に合格してしました。夏休み明けの9月1日、せんべい布団一枚を抱えて入寮しました。これが我が人生の転機となりました。

実は叔父と同名同姓の教授がおられて牧師をかねていました。その偉い先生の甥御さんと間違えられたのです。その大先生はすでに亡

くなっていたのに面接官は知りませんでした。

本間誠先生の長男しんいちさんはNTTの幹部でした。後日、NTT聖書研究会でお会いしており、この事情をお話すると「親父は死んでからも伝道していたんですな。」と感心しておられました。

テロリスト志願の少年を主が直接YMCAの学生寮に導いてくださったことが今はつきりと分かります。以上です。ありがとうございます。

(*) 编者注

ヤハウエ・イルエについてこの言葉は「アドナイ・エレ」という訳語で親しまれてきた。

(口語訳、新改訳) ヘブル語のヤハウエと記される4文字の言葉は、読むのが畏れ多いとして別の「主」を意味するアドナイで読み替えられてきたからである。

英訳では、次のように主は備

えたもう、の意味で訳されているが多い。

・The LORD Will Provide

(NIV)

・Yahweh provides (NJB)

ひとつになる

貝出 久美子

ヨハネ福音書17章には繰り返し、信じる者がひとつになる、ということが書かれています。

…聖なる父よ、私に与えてくださった御名によって彼らを守ってください。私たちのように、彼らも一つとなるためです。(11節)

…父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなた

がわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。(21節)

…あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。(22節)

…わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。(23節)

このように、21〜23節と続けて、繰り返されているのを見て、イエス様が信じる者が一つになるということ、強く願われていること

を思わされました。

そして、イエス様は、わたしたちが一つになりイエス様の内にいることによって、この世の人たちが、わたしたちが神様から遣わされたということがわかるようになる、ということも、繰り返し書かれています。

信じる者がひとつになるとき、そこに神様の力が働いて伝道になるのだと思わされました。

いま、こうして、共にあつまり、共に賛美し、祈りをあわせることのできる

この恵みを心から、神様に感謝します。

6月に咲くアジサイ。7月になった今も咲いています。わたしたちも、小さな花ですが、イエス様という、ひとつの木でつながって集まってひとつになって晴れの日も、また、雨の日

にも、いつそう、雨にぬれながら共に咲くことができ

ますようにと願います。アジサイという歌を前につくりました。

歌詞を読みます。

♪ あじさいは

6月に咲くエクレシヤ
小さな花が 一つになつて

あじさいの花のように
主に結ばれて

きよい歌を共に歌おう。
(ヨハネ17の11、21、22、23)

(なお、この内容は、2024年7月7日の主日礼拝 前講の予定原稿です。当日朝に貝出さんが右手を怪我して運転やパソコンなどの操作もできなくなり、病院に夫君の車によって行くことになり、礼拝に参加できなくなりこの前講はなされないままとなりました。)

編集だより

読者からのお便りから

○私の信じる神さまは、私たちに目に見える形で(キリストの十字架)神が表して下さり、その愛はまことに、正義、真実、完全で、欠けたところのない愛であることを、「いのちの水」誌のメッセージから新たに確信が与えられました。この愛なる神様に信頼してこそ、現在の心痛む世界状況にあつても希望が与えられます。

神こそわが岩、我が救い、私は決して揺らぐことがない。岩を見ても神さまのメッセージを聞き取れたダビデの信仰に頭下がります。(近畿地方の方)

○アルプスの少女ハイジ「小さいころに知っていたハイジと全く違うハイジに出会うことが出来ました。ハイジの常に人を慰めよう

とする姿が心に残りました。この文章を物語が好きで友達と一緒に読もうと思いません。

きつと喜んで聞いてくれると思います。(九州の方)

○「いのちの水」誌に書かれていたハイジのお話には、主人公ハイジの新しいこと―信仰のことを知らせていただきました。

私は、ハイジの物語は、テレビ放映のとき見ていましたが、テレビからは知らされなかった信仰の面からのハイジを知りたいと思い、あらためて原著の邦訳を読みたいと思っています。(中部地方の方)

集会案内

主日礼拝 毎週日曜日午前10時30分～12時30分
その他家庭集会是ホームページ参照。

主筆・発行人 吉村孝雄(徳島聖書キリスト集会代表)

〒七七三〇〇一五 小松島市中田町字西山九一の一四 携帯電話 080-

6284-3712 固定 0885-32-3017 (FAX共) E-mail: emuna@ace.ocn.ne.jp ○1の冊子は、読者の方々からの自由協力費で作成、発行しています。協力費をお送りくださる場合には、次の郵便振替口座を用いるか、千円以下の場合には切手でも結構です。

郵便振替 口座番号 01630-5-55904 加入者名 徳島聖書キリスト集会 ○http://pistis.jp (「徳島聖書キリスト集会」で検索)